

平成30年度 岡山市大学生まちづくりチャレンジ事業
最終報告会 平成31年2月17日

歴史的町並みの空き家活用による地域再生 一陣屋町足守・旧薬局のリノベーション



岡山県立大学 デザイン学部デザイン工学科
建築・都市デザイン領域 西川博美研究室

発表者：荒川依里香・野口妃紗恵・原名優香

リノベーション前の様子



5月～6月 現地見学と実測

リノベーション案の提案

1. 玄関扉の改修
2. 窓の格子の改修
3. 薬局部分の天井の改修と照明器具の取り換え
4. 薬局部分のカウンター廻りの改修と家具の制作
5. 薬局部分の薬棚の改修



使い方6・カウンター

折りたたみ式カウンター増設の提案、ベンチ兼スツールの提案

現在

折りたたみ式カウンター

- ・お会計の時の荷物置きとして
- ・レジ前の商品置き場として
- ・カウンター席として

奥行：30cm
高さ：80cm
厚さ：1.5cm

カウンター利用時

ベンチ兼スツール

ベンチとして
売るときは棚代わり
カウンターの椅子として
会議の時の椅子として

カウンター収納時

外観1～3・玄関の扉、窓のアルミ格子の撤去・デザイン変更

既存のアルミでできた窓格子、4枚扉のアルミサッシを統一感ある木材のデザインへと変更する提案

野崎邸の入口は、現在アルミサッシの4枚扉でできている。その隣にある窓の格子も同様であり、風情ある野崎邸の外観と比べて統一感がないようにも思える。アルミサッシを木材へと変更し、近隣住民・街ゆく人の足を止めて気軽に寄ってもらえるような優しい雰囲気の外観にする提案である。

立面図 1/100

立面図 1/50

完成外観イメージ図1

完成外観イメージ図2

暖簾

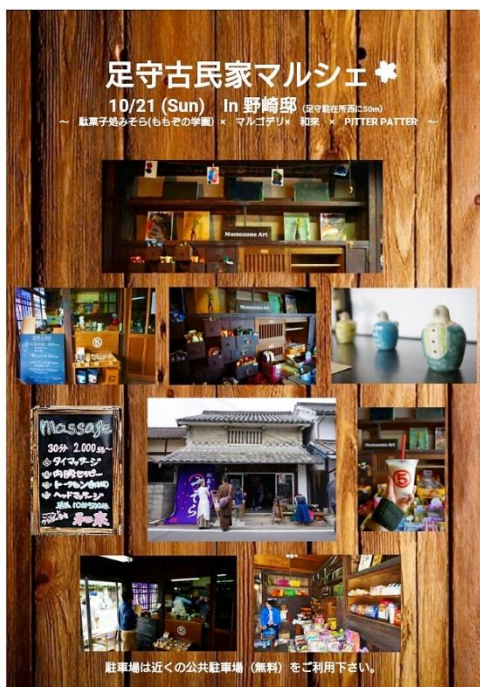
明るい色の木

改修工事 7月開始



地域の人たちによる活用

工事途中も使用されています！



足守古民家マルシェ



あしもり酒場

他にも、
手作り教室の開催など

改修工事

玄関建具工事



山陽新聞 掲載

11月22日 取材
12月 9日 掲載



新 月 日 第3種郵便物認可

備前エリア BIZEN

空き家改修 交流の場に

木造一部2階の建物で、推 空き家になった。 定築100年以上。薬局兼住 改修に携わる主なメンバー 家だったが、家主が亡くなり は、デザイン工学科の西川博美

岡山・足守の町並み保存地区で県立大生ら

県立大（総社市窪木）デザイン工学科の学生たちが、岡山市北区足守の町並み保存地区にある空き家の改修を進めている。専門知識を生かし、建具の設計から製作まで手掛ける。来年1月にも完成する予定で、地域住民が気軽に立ち寄れる空間を目指す。（竹久祐樹）

県立大の学生らが改修を進めている町並み保存地区の空き家

入りやすい 雰囲気意識 来月にも完成

完了後は、地元の社会福祉法人・ももどの学園が所有者の協力を得て、幅広い世代が交流できるコミュニティスペースとして活用する予定。リーダーの同研究科安達駿さん(23)は「古民家の風情を残しつつ、入りやすい雰囲気づくりを意識した。たくさんの人でにぎわう場になればうれしい」と話している。

准教授（建築・都市デザイン領域）が主宰する3年生のゼミ生3人と、県立大大学院デザイン学研究所の1年生2人。1階（約25平方メートル）を対象に7月に作業を始めた。開放感を高めるため、天井に張られていたベニヤ板は剥がし、趣のある梁を露出させた。蛍光灯は取り外し、柔らかな光の電球に更新。外扉はアルミ枠を撤去して木枠を新たに作り、歴史的な町並みに溶け込ませた。通りから室内の雰囲気に分かるよう、格子枠の間隔も工夫した。塗装などを経て仕上げる。事業費は約80万円で、うち約25万円は、岡山市の「大学生まちづくりチャレンジ事業」の補助金を活用。残りは大学や所有者からの資金を充てる。

に張られていたベニヤ板は剥がし、趣のある梁を露出させた。蛍光灯は取り外し、柔らかな光の電球に更新。外扉はアルミ枠を撤去して木枠を新たに作り、歴史的な町並みに溶け込ませた。通りから室内の雰囲気に分かるよう、格子枠の間隔も工夫した。塗装などを経て仕上げる。

RSKラジオ 収録

12月26日 生放送収録



ほぼ完成



のれん制作中！